

見守り・連携・協力

『きれいに磨かれた靴をはいている人間は、注意深く用心して泥道をよけて歩く。が、一度足を踏み誤って、靴を汚したが最後、彼はもう前ほど用心しなくなる。そしてさらに、その靴がすっかり汚れてしまったのを認めると、もう大胆に泥の中をジャブジャブと歩いて、いやが上にもこれを汚してしまうものである』

初任校で学級を担当。その中のやんちゃ君たちが万引きで補導され、学校に生徒・保護者を召喚（しょうかん）して指導した最後に当時の校長が話した言葉です。のちに、トルストイ著『レフ・ニコラエヴィチ・トルストイ』の一節だと知りました。なぜだか30年経った今でも、時折その言葉が思い出されます。

人生のなかで、一度も間違い（過ち）をしない人は皆無だと思います。大人でさえ、間違いを起こすものです。子どもでしたら、間違いは起こして当たり前です。そんな時、私たち大人はどう対処したら良いのでしょうか。

ちょっと汚れた靴であれば、汚れを布でふき取り磨けば何とかありますが、ジャブジャブに汚れてしまった靴は簡単にはいかないものです。場合によっては再生のため、専門の靴屋さんに持っていく必要があるかもしれません。

学校の先生方は、子どもの心の汚れを取る方法を経験上知っています。しかし、それは初期的・急性的なものであり、深刻かつ慢性的な場合は、専門的な先生方のお力を借りることになります。つまり、早期発見・早期対応がとても大切になってくるのです。

子ども達を取り巻く社会環境は年々難しさを増しています。家庭・地域・学校が連携し、子ども達を見守り、「あれ、おかしいな？」と感じたら早い時期にお互いが連絡を取り合い協力すること。そして、もし汚れてしまっていたなら、「私たち大人が連携して、子どもと一緒に汚れ落としをしながら、もう一度ピカピカに磨く方法を考えていく」そんな学校でありたいと思っています。